

# 雨の降り方が変わっている?!



大雨や短時間強雨の発生頻度が増加しています。アメダスのデータで約50年間の変化をみると、より強度の強い雨ほど頻度の増加率が大きく、1時間降水量100mm以上の極端な大雨の回数では約2倍になっています。

(気象庁 気候変動監視レポート2022)



## 気温の上昇が、雨の降り方に影響 ～ 短時間強雨 なぜ増加?～

理由の1: 雲の材料が増える!

理由の2: 雲が大きく成長する!

雲は、水蒸気を含んだ空気が上昇気流によって空に昇り、目に見えなかった水蒸気が白く見える水や氷の粒になったものです。



気温が上がると空気中にためておける水蒸気(飽和水蒸気量)が増えます。

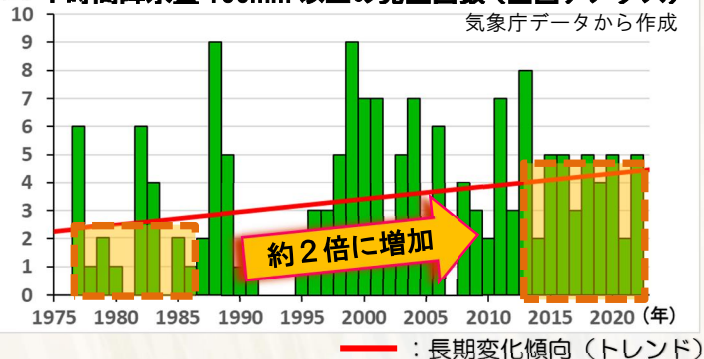
また、温められた地面近くの空気により上昇気流が強くなります。たくさん水蒸気と強い上昇気流で、空気は空高く昇り大きな雲を作ります。

発達した大きな雲の中には、強い上昇気流があるため、水や氷の粒は簡単に落ちることができず、粒は繰り返し合体して大きくなります。この大きな水や氷の粒を、強い上昇気流でも支えきれなくなると一気に落ちて急な強雨となります。

気温が上がることで、雲の材料(水蒸気)が増え、強い上昇気流が起き、雲が大きく成長するため、短時間強雨が増えています。

(回) 1時間降水量100mm以上の発生回数(全国アメダス)

気象庁データから作成



統計期間(1976~2022年)の最初の10年間と最近10年間の平均年間発生回数(日数)\*について、変化の倍率をみると、猛烈で恐怖を感じるような「1時間降水量100mm以上の雨」は約2倍になっています。

## アメダスでみた\*極端な大雨の変化

気候変動監視レポート2022、リーフレット「雨と風」から

雨の強度	変化の倍率	強さのイメージ
1時間降水量 50mm以上	約1.5倍	滝のように降る。
1時間降水量 80mm以上	約1.8倍	息苦しくなるような 圧迫感がある。
1時間降水量100mm以上	約2.0倍	恐怖を感じる。

\*: アメダス1,300地点あたりに換算した値

## 1時間降水量50mm以上の雨の影響

気象庁提供



傘はまったく役に立たない



車の運転は危険

## 経験したことのない大雨への備え ~ 気候変動適応を! ~



これからも起こりうる「経験したことのない大雨」から自分たちの身を守るためには、災害が起こることを想定して、ハザードマップの確認やマイ・タイムライン(個人の防災行動計画)の作成など、「事前の備え」をすることが、より一層求められています。



栃木県気候変動適応センター【事務局: 栃木県環境森林部気候変動対策課 ☎028-623-3187】

気候変動とその影響、気候変動影響による被害を回避・軽減するための適応策に関する情報はセンターHPを御覧ください。

(<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/tochi-tekiou.html>)

HP



X  
(旧 Twitter)